

Ⅲ 第24回市政世論調査 調査結果活用事例

●今後の広報紙など配布方法の在り方について【地域協働課】

設問	現在、「広報いなざわ」をはじめ各種行政文書は、毎月1回区長を通じて配布しています。今後、この配布方法をどのようにすべきだと思いますか。
調査結果	「現状のとおり」が68.6%、「業者による全戸配布方式(ポスティング)」が24.8%となりました。
活用した事例の進捗状況	この結果に基づき、「広報いなざわ」など各種行政文書は、現状のとおり区長を通じて配布する方法を継続することとしました。

●水道水の安全についての意識調べ

飲料水を備蓄することについての意識調べ【水道業務課】

設問	<ol style="list-style-type: none"> 飲料水として、最も利用する水は何ですか。また、水道水を利用していない理由は何ですか。 災害に備え水を備蓄する目安は、7日分となっていますが、あなたの家では、災害時に利用できる飲料水を何日分備蓄していますか。
調査結果	<ol style="list-style-type: none"> 「水道水」が40.7%と最も高く、次いで「市販のペットボトル入りの水」が18.4%、「浄水器で浄水した水道水」が17.8%となりました。 また、水道水を飲料水として利用していない理由は、「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」が28.4%と最も高く、次いで「水道水は安全性(水質)に不安を感じるから」が24.9%、「水道水は塩素(カルキ)臭がするから」が18.6%となりました。 「1日分～3日分」が50.4%と最も高く、次いで「備蓄していない」が36.1%となりました。 また、目安となる7日以上分の備蓄をしていない理由としては「保管場所がない」が33.8%と最も高く、次いで「備蓄する目安を知らなかった」が24.7%、「緊急性を感じていない」が24.5%となりました。
活用した事例の進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)などで示されている目標値に対する達成度を検証することに利用しました。 また、令和元年に開催された消費生活展で水道水と市販のペットボトルの水との飲み比べを行い、水道水の品質をPRしました。 飲料水の備蓄について、今後の啓発活動の方針・方法を検討する根拠として活用しています。

●住宅用火災警報器の設置状況調べ【消防本部予防課】

設問	<p>1. お住まいの住宅には、義務となる場所に住宅用火災警報器は設置されていますか。また、住宅用火災警報器の作動確認を実施しましたか。</p> <p>2. お住まいの住宅はいつ建てられましたか。</p>
調査結果	<p>1. 「一戸建て住宅」、「賃貸住宅」、「持ち家の共同住宅」の合計で「全て設置している」は 38.5%となり、「一部設置している」の合計は 32.4%となりました。</p> <p>また、住宅用火災警報器の作動確認をしているのは 48.1%で、このうち 96.3%が「異常なし」となりました。</p> <p>2. 住宅用火災警報器の設置が義務付けられた、平成 18 年 5 月以前に建てられた住宅は 68.6%で、この家族構成は、「65 歳以上のみの世帯」が 23.0%、「65 歳未満を含む世帯」が 75.6%でした。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>この結果に基づき、住宅用火災警報器の設置義務を周知するため、ホームページでの広報やチラシの配布などを行い、設置率の向上を図るとともに、設置後の維持管理についても注意を呼び掛けました。</p> <p>また、横断幕を名鉄名古屋本線をくぐるアンダーパスの上に設置し、啓発活動を行っています。</p>

●いきいきいなざわ・健康 21（第 2 次）計画推進に向けて【健康推進課】

設問	<p>1. たばこが影響する病気について知っていますか。</p> <p>2. 日頃から体を動かすよう心掛けていますか。</p> <p>3. 1 日に 30 分以上歩いていますか。</p> <p>4. 朝食を毎日食べていますか。</p>
調査結果	<p>1. 「肺がん」が 94.5%と最も高く、次いで「気管支炎」が 71.5%、「ぜんそく」が 65.5%となりました。</p> <p>2. 「ときどき心掛けている」が 53.6%と最も高く、次いで「いつも心掛けている」が 28.7%、「心掛けていない」が 16.3%となっています。</p> <p>3. 「歩いている」が 43.1%、「歩いていない」が 55.4%となり、性別では男性で「歩いている」が高くなりました。</p> <p>4. 「ほぼ毎日食べる」が 87.6%と最も高くなりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>いきいきいなざわ・健康 21（第 2 次）計画中の評価指標として活用し、達成状況を確認しました。2023 年度の最終評価までに、事業の推進をしながら目標に近づけていきます。</p>

●市民に利用される市民病院に向けて【市民病院管理課】

<p>設問</p>	<p>あなたや家族の方が病気などになったとき、稲沢市民病院を利用しますか。また、利用しない理由は何ですか。</p>
<p>調査結果</p>	<p>「利用する（利用している）」が 39.3%で最も高く、次いで「分からない」34.5%、「利用しない」25.7%となりました。性別では、男性で「利用する（既に利用している）」が高くなっており、年齢別では、65歳以上の「利用する（利用している）」が 61.5%となり、他の年齢に比べて高くなっています。</p> <p>利用しない理由としては、「自宅から遠く、不便」が 47.1%と最も高く、次いで「待ち時間が長い」19.0%、「診療時間が合わない」9.8%が主な理由になっています。</p>
<p>活用した事例の進捗状況</p>	<p>65歳以上の利用率が高いことから、市民病院で開催する「病院まつり」や「公開講座」、「健康教室」において、認知症や健康寿命など高齢の方により関心を持っていただけるテーマを取り上げました。</p> <p>「待ち時間が長い」という点について、外来待合にデジタルサイネージを設置し、待ち時間で楽しめる動画などのコンテンツを表示するとともに、混雑状況に応じて丁寧に説明することで、より利用しやすい病院となるよう努めています。</p>